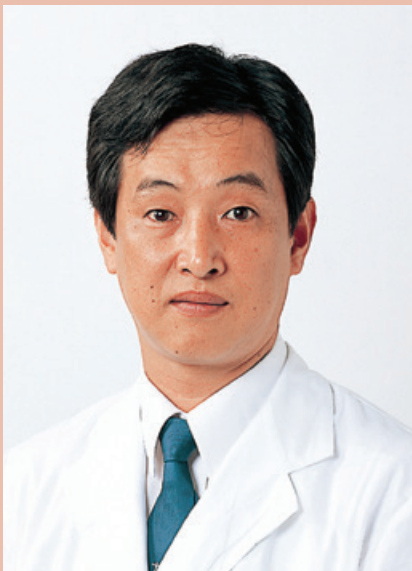


● 教室(診療科)の特色 ●

高齢化の進行に伴い呼吸器系の病気は増加傾向にあり、世界保健機構(WHO)も21世紀の重要疾患として慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺がん、結核などをあげています。しかし、呼吸器疾患はそれだけでなく気管支喘息、肺炎、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など様々です。全てに対応することは困難ではありますが、当科では可能な限り対応するよう日々努めています。

当科では特に肺癌の診断・治療を中心に診療を行っています。胸部Xp、CTで異常を認めれば気管支鏡、CTガイド下生検、そして必要なら胸腔鏡下肺生検(VATS)を行い積極的に診断を行います。また治療に際しても化学療法だけでなく放射線治療及び化学療法との併用、または手術及び術後化学療法など放射線科、呼吸器外科と共同で診断及び治療に当たっています。不幸にも再発した場合でも骨転移であればビスフォスフォネートの点滴だけでなく放射線の外照射、メタストロン治療なども放射線科と共同で行い、脳転移の場合も全脳照射だけでなく、可能なら手術、定位脳照射、髄膜炎併発時のオンマイヤリザーバー、シャントなども脳神経外科と共同で行います。つまり緩和治療以外はほぼ診療科内で治療可能な体制を整えています。



後藤 功(ごとう いさお) 講師(科長)

■ 専門分野

呼吸器内科全般、肺癌

■ 主な学会/専門医資格

日本内科学会/認定内科医、認定内科専門医、日本呼吸器学会/専門医、指導医

日本呼吸器内視鏡学会/気管支鏡専門医、指導医、日本臨床腫瘍学会/暫定指導医

■ 研究課題

肺癌の化学療法

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

毎日2-3診の外来診療と平均40人の入院診療を行っています。

現在の診療は、毎日外来2-3診で平成28年のデータでは合計約13000人で新患が1200人余りになります。肺がん、喘息、COPD、気管支拡張症、非結核性抗酸菌症などで通院されています。平成27年のデータでは在宅酸素療法は252名、在宅人工呼吸器が45名、睡眠時無呼吸症候群のCPAPが112名でした。また肺がんの化学療法のうちカルボプラチンの併用療法、単剤治療は外来で行っています。

平成28年の入院患者さんの内訳は、合計909名で腫瘍性疾患474名(非小細胞がん313名、神経内分泌腫瘍120名、胸膜中皮腫13名、胸腺腫瘍17名)、呼吸器感染症53名、びまん性肺疾患35名などです。また検査入院として3日間の気管支鏡入院が232名、CTガイド下生検が3名、睡眠時無呼吸症候群の診断及びタイトレーションのためのポリソムノグラフィー入院は67名でした。

また、気管支鏡検査は291件で癌精査が171件、びまん性肺疾患が51名、感染症診断が38名、血液精査が12名でした。

- 連絡先：大阪医科大学附属病院呼吸器内科 TEL:072-683-1221 / e-mail:respm@osaka-med.ac.jp
 ■ホームページ：http://www.osaka-med.ac.jp/deps/in1/res/

肺炎は、入院のCapacityの問題で外来治療が多くなりましたが、重症例は入院にも対応しています。肺結核は入院には対応していませんが、排菌のない患者さんは外来で治療を行います。また最近増加してきている非結核性抗酸菌症についても画像上の増悪、症状増悪があれば積極的に治療を行っています。また、気管支拡張症などの慢性気道感染に対してもマクロライド少量持続投与と中心に加療しています。

睡眠時無呼吸症候群については簡易スクリーニングで疑いが強い場合、ポリソムノグラフィー入院にて診断確定し、陽圧換気(CPAP)の導入を行っています。

肺癌については、シスプラチン、化学放射線治療は入院加療を行います。可能な限り外来にて化学療法を行うようしています。

豊富な症例のため、学会発表しやすく、呼吸器学会の専門医取得には非常に有利であると考えます。また肺癌化学療法の治験、臨床試験も積極的に進めています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	専門領域
池田宗一郎(講師(准))	総合内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医、気管支鏡専門医	呼吸器全般、免疫、アレルギー疾患
藤阪保仁(准教授)	呼吸器専門医、がん薬物療法専門医	呼吸器全般、肺癌
今西将史(助教)	呼吸器専門医	呼吸器全般、職業性肺疾患
田村洋輔(助教)	呼吸器専門医	呼吸器全般、肺癌
吉田修平(助教(准))	呼吸器専門医、総合内科専門医	呼吸器全般
中村敬彦(助教(准))	呼吸器専門医	呼吸器全般、喘息、COPD
松永仁綜(助教(准))	認定内科医	呼吸器全般
三好啓治(助教(准))	認定内科医	呼吸器全般

初期研修プログラムの特徴

呼吸器内科では、一般病床約40床を有し、年間入院数約900件以上と豊富な症例数を有しています。肺癌、呼吸器感染症、COPDを含めて呼吸器病学全般に関して幅広い呼吸器内科の専門研修を受けることが可能です。

呼吸器内科のレジデント研修は、呼吸器病学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、呼吸器領域のいかなる分野の診療においても習熟した呼吸器専門医の育成を目的とします。

呼吸器内科では、頻度の高い呼吸器疾患(呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、COPD、びまん性肺疾患、呼吸不全など)を各分野の専門家の指導のもとに経験することができます。さらに、呼吸器内科専門外来の診療現場に入って、外来における専門診療の知識・技能と態度のあり方をも学べます。

また、日常の臨床から得られる様々な問題点から発展した臨床研究を積極的に企画し、実践する能力を身につけることができる研修システムを構築しています。具体的には、①学会報告や症例報告、②臨床研究から論文作成、③当科と連携を深めている呼吸器疾患研究における基礎リサーチへの参加、などがレジデント研修期間に可能です。

そして、呼吸器科研修カリキュラムに基づく臨床経験、技量の修得は、日本呼吸器学会専門医の受験資格取得のための重要な過程となります。

研修内容と到達目標

<呼吸器内科レジデント1年目>

臨床

- 呼吸器疾患全般にわたる入院患者を、病棟指導医のもと診療する。
- 呼吸器疾患全般の病態を把握し、的確な診断・治療計画、症例の提示をする。
- 画像(胸部X線、胸部CT)の読影、呼吸機能検査、気管支内視鏡検査、胸腔穿刺など呼吸器疾患に関する検査法を学ぶ。
- 各疾患に対する薬物療法、肺癌の化学療法などの治療法を学ぶ。
- 呼吸器疾患における処置(気管内挿管、人工呼吸管理、NIPPV、胸腔ドレナージなど)を学ぶ。

研修医の指導

- 内科全般の総合的指導を行い、チームを組んで患者の診療にあたる。

臨床研究

- 経験した症例については症例報告し、論文にまとめる。
- 研究会、学会での発表および論文作成にあたる。

その他

- カンファレンス、抄読会、勉強会などに積極的に参加し、基礎的あるいは最新の知識や成果を学ぶ。
- 文献の検索法や英文論文の読み方、EBMの手法を学ぶ。

<呼吸器内科レジデント2年目>

臨床

- 呼吸器疾患の各分野についての病態および診断・治療についての知識を深め、技能を向上させる。1年目で得た基礎的な診断・治療の技術を習熟するように努める。

研修医の指導

- 呼吸器科一般の診断・治療・手技について研修医、1年目レジデントの指導を行う。
- 各症例の問題点を的確に指摘し適切な治療法を指示できる。

臨床研究

- 臨床経験に基づいて研究テーマを決め、臨床データを収集・解析して学会や研究会で発表し、論文にまとめることを目標とする。
- 経験した症例については症例報告し、論文にまとめる。
- 研究会、学会での発表および論文作成にあたる。

<呼吸器内科レジデント3年目>

臨床

- 呼吸器疾患全般の病態、診断、治療について正確に理解し、カンファレンスなどで問題解決にむけた適切な方向を示せる。
- 他科からのコンサルテーションに対し的確な対応ができる。
- 呼吸器疾患に関する各種検査・治療および手技についてさらに習熟する。

研修医の指導

- 研修医、1・2年目レジデントの指導を行う。
- 医療チームのリーダーシップが取れるようにする。

臨床研究

- 新たな臨床研究を企画・実践して原著論文を書く。

週間スケジュール

火曜日の夕方:呼吸器疾患の症例検討会(スタッフ全員による)

水曜日の夕方:抄読会ジャーナルクラブ(後期研修医以上のスタッフ全員)

木曜日の早朝:研修医レクチャー(スタッフの中の担当者による)

金曜日の早朝:呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理合同カンファレンス(LDC)

	午前	午後
月曜日	病棟	医局会(夕方)
火曜日	気管支鏡	症例検討会(夕方)
水曜日	病棟	病棟 抄読会(夕方)
木曜日	気管支鏡	教育回診
金曜日	LDC(朝)	病棟
土曜日	病棟	

研修病院群

市立伊丹病院 呼吸器科、市立池田病院 内科

市立ひらかた病院 呼吸器内科、北摂総合病院 呼吸器内科

評価方法

日本呼吸器学会のホームページ：<http://www.jrs.or.jp>

の「呼吸器専門医研修カリキュラム」を用いて行う。なお、呼吸器内科専門医の取得には、呼吸器臨床に関する論文発表が3編以上必要であるので、できるだけ多くの症例を経験して、学会発表、論文発表に努める必要がある。

取得できる認定医・専門医

内科学会認定医、専門医、呼吸器学会専門医、呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医など

参加学会等

日本内科学会/日本呼吸器学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本臨床腫瘍学会/日本癌治療学会/日本癌学会/日本肺癌学会/日本アレルギー学会/日本感染症学会/IASLC/ASCO/ESMO/日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会(JSSOG)/American Thoracic Society(ATS)

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

内科学Ⅰ教室では、内分泌代謝学、呼吸器病学、血液病学の3つの内科学臨床部門を抱え、診療領域を超えて共通した研究手技(遺伝子・蛋白解析など)を整備する他、共通の場で研究を発表することにより、多学的な視点からディスカッション、フィールドを超えた共同研究が可能となっている。また、当科は特に各個人の希望を最大限に重視し、臨床に属しながら基礎教室での研究、他施設研究機関での研究も同時に行っている。



気管支鏡検査

現在の研究テーマとその概要並びに展望

㊦ 肺癌

主に他施設共同研究として 近畿大学、関西医大等との共同研究で「切除不能局所進行非小細胞肺癌に対するシスプラチン/nab-パクリタキセル+胸部放射線同時併用化学療法の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験」

西日本癌研究機構では「WJOG7512L:化学療法未施行ⅢB/Ⅳ期・術後再発肺扁平上皮癌 に対するCBDCA+TS-1併用療法後のTS-1維持療法の無作為化第Ⅲ相試験」「WJOG7813L:高齢者進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するドセタキセル単剤療法とカルボプラチン・ペメトレキセド併用後ペメトレキセド維持療法のランダム化比較第Ⅲ相試験」その他にインターグループstudyとして「J-Alex:既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するドセタキセルとnab-パクリタキセルのランダム化比較第Ⅲ相試験」「RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究」。院内では「高齢者切除不能局所進行肺扁平上皮癌に対するネダプラチン+胸部放射線同時併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験」を施行中である。

また基礎研究として薬理学教室との共同研究で抗がん剤の心筋に対する副作用の検討を行っている。

㊧ 間質性肺炎

過敏性肺臓炎の原因検索の一環としてのイムノキャップ法による鳥抗体の検討



呼吸器内科メンバー